

いきいき健診スタート

弘前大学と弘前市が連携し、高齢者の全身の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が21日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。健康寿命の延伸、認知症予防を目指す全国的な大規模調査の一環で、初日は市民85人が参加し、一般的な内科健診のほか、味覚や歩

弘大と弘前市

行速度、記憶力などを検査する17プーイスを回り、自分の体の健康状態を確認した。26日までの6日間で約550人が受診する予定。

健診は全国の高齢者約1万人を対象に生活習慣や握力、認知機能といった健康状態を10年間追跡する調査で、弘前大や九州大学などが参画し、全国8カ所で2016年度に始

高齢者 味覚や歩行検査

まった。

弘前市では参加登録者をおよそ半数に分けて、それぞれ16、17年度を調査開始年とし、隔年で10年間継続して健診を行う。健診には弘前大と共同研究を進める大手企業も参画し、認知症に関連する味覚や骨密度といった独自の検査にも取り組んでいる。

今回は17年度に受診した73歳以上の市民が対象。参加者はブーイスを順番に回り、甘味や塩味といった味覚機能を診る検査、脚の筋力の衰えを歩行速度で測る歩行調査、認知機能検査などを受けた。

健診を終えた三浦清子さん(73)は「体が衰えていなくてよかった」と笑顔。健診をきっかけに、毎日運動をしたり、食生活に気を付けたりしているといい「2年ごとの健診が元気な体づくりにつながっている」と話した。

味覚検査を受ける受診者(右)



健診を取り仕切る弘前大学大学院医学研究科附属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長はこれまでの成果について「野菜をたくさん摂取することで血液中のカロテノイド濃度が増加する。それが脳の萎縮を防ぐことにつながるかもしれない」といったことが分かってきている」と紹介。健診の重要性を強調し、「(27年度で)データがそろそろ。追跡調査のデータを基に研究を進め、認知症予防につなげるとともに、地域の皆さんの生活に役立てていきたい」と述べた。(稲葉智絵)